

# なんじゃもんじゃ

Vol. 36

Municipal Ena Hospital Public Relations Magazine

## 基本理念

私たちは、地域住民のために、医療倫理を守り、質の高い、信頼される、思いやりあふれる医療を展開いたします。



恵那病院HP

## INDEX

生活支援型医療の充実を目指して	…1
臨床検査委員会	…2
回復期リハビリテーション病棟の開設について	…3
外来担当表	…4
クイズ	…4
編集後記	…4



当院は平成22年より(財)日本医療機能評価機構の認定を受けております。

### 生活支援型医療の充実を目指して

— 多職種連携の推進、在宅医療の支援体制作りを実践して行きます —



明けましておめでとうございます。市立恵那病院は、12年目を迎えました。

昨年は新病院建設の土地造成工事も始まり、地域包括ケアの要であるリハビリの充実を目指して、平成26年9月に回復期リハビリ病棟を開棟しました。さらに病院を退院され地域へ戻られた患者様のシームレスな医療・介護の提供を目的(地域へ出て行く最初の事業として)に、訪問看護ステーションを開設しました。国は地域包括ケア構想を打ち出し、在宅医療の充実を図りたいとしています。

また、昨年から病床機能報告制度が動き出し、その中で、地域の適切な病床数はどれほどなのか、その地域の病院の機能はどのような機能があれば良いのかという検討が始まりました。国は地域医療等のガイドラインを示し、各都道府県が地域医療ビジョンを策定する予定です。具体的には、適正病床数や機能を決めようとするのです。当院もその方向に舵を取り実践し始めました。

当院のような地方にある200床前後の自治体病院が特色ある医療を行おうとすれば、それは、もう一つの最先端の医療である多職種による連携医療を行うことです。地域全体を病院の病床のように見立てて、医療・介護活動を行って行くのです。生活支援型医療・介護とでも言うのでしょうか、この需要は、今後さらに増して来ます。

平成28年には新病院ができます。そして、平成30年度には医療保険と介護保険の同時改定があります。ここで医療と介護が一体化されるような改定になります。

新病院では、このような動きに対応すべく、回復期リ

ハビリ病棟の開棟と訪問看護ステーションを開設し、現在も運営しているデイケアセンター「ほほ恵み」の定員枠を増やして行きます。今まで行ってきた医療、先ず住民の皆さまが受診する最初の医療機関であるために、総合的な診療ができる病院の機能は維持します。しかし、心臓血管手術・脳外科手術等の集中的な治療や看護・人的資源を厚く投入しなければ行けないような医療については、中央の高次機能病院と連携して行います。病態が安定した時は地元である当院に戻っていただき、生活の場である地域に復帰できるように支援していきます。

そして、恵那市全体での医療・介護体制を構築すべく在宅医療への参画も行い、24時間、住民の方に安心して暮らしていただけるような生活支援型医療・介護の体制構築ができればと考えています。その他には、健診の充実、透析医療の充実、産後ケアの充実を図って行きます。

最後に、我が国は超高齢化社会を迎えるために医療制度の改革が必要との観点から、今後様々な改革がなされます。それぞれの病気の専門医を揃えることは不可能でありますし、その医師の絶対数が足りていません。それゆえ今後、総合診療専門医なる新たな医師の専門領域が平成29年度から生まれます。当院はそういった専門医が集う病院を目指しています。

医療保険と介護保険の改定を契機に、新しい市立恵那病院、新しい恵那市の医療・介護体制構築を行ってまいりますので、何卒、住民の皆さまのご支援宜しくお願い致します。

(管理者 細江 雅彦)

## 臨床検査委員会



当院の検査室で実施できる検査項目は、生理検査、生化学、血液、凝固、感染症、血糖、HbA1c、血液ガス分析、腫瘍マーカー、内分泌・免疫関連、便、尿、細菌、病理等が有ります。

患者さまより採取した血液を主に扱う検体検査部門においては、大部分は専用の検査機器を用いて分析（計測）を行っています。さらに、分析装置より得られたデータの信用性を確保するために、コントロール血清やコントロール血球（値付けされた標準物質）を用いて機械が正常に動いているかどうかを毎朝、患者さまの検体を測定する前

に実施しています。

あまり聞きなれない言葉ですが、精度管理（データ管理）でX-R管理図及び標準偏差、変動係数（データがどのように分布しているかを表すもの、その集団の代表値及び、ばらつき具合を示す）を基に各種機器の検査データが基準値内に入っているか、基準値を外れているか、外れている場合は何所に原因があるのか、どのように対処すれば良いのか、原因の究明及び検討を行なっています。対象となる検査項目数は約100項目にのぼります。迅速かつ正確なデータを提供することを念頭に考えています。

また、新しく開発された検査キットや検査試薬・検査機器を採用するにあたって、ランニングコストや使用期限・使用頻度等を考慮し、メーカーの選択及び決定・保守管理契約機器の選定なども検討しております。

細菌検査部門では、細菌検査の統計（分離株情報・耐性菌検出数・薬剤感受性率など）を基に、院内感染対策に伴う細菌検査業務体制の整備／見直し等を行なっています。特に、臨床における抗菌薬療法の補助業務として、薬剤感受性試験報告薬剤の選定や分離菌同定／薬剤感受性検査結果に基づいて、抗菌薬適正使用の在り方等において、医師・薬剤師と連携を取りながら検討を行なっております。

（臨床検査室 可児泰正）



## 回復期リハビリテーション病棟の開設について



当院では、平成26年9月1日より回復期リハビリテーション病棟を開設いたしました。当病棟では、脳血管疾患や大腿骨頸部骨折、脊椎・骨盤骨折、その他の病気から急性期治療を終えて症状が安定し始めた状態をいいます。

当病棟では、自然回復を促す環境をつくり、多職種の医療専門職のリハビリチームでリハビリテーションを進めることにより、寝たきり等を防止し、在宅生活に復帰することを目指します。

### 【リハビリチームの医療専門職】

医師・看護師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・薬剤師・管理栄養士・介護福祉士・社会福祉士・その他必要に応じたスタッフ

### 【回復期リハビリテーション病棟では】

当病棟では、何よりも日常生活機能の向上を目的としております。

#### 1 離床

日常生活すべてがリハビリになるため、退院後の生活を考え、日中は普段着、夜はパジャマに出来る限り着替えて頂き、日常生活で出来ることを徐々に増やしていきます。また、今後は個別訓練以外にも趣味の活動・様々なレクリエーション等も追加していく予定です。

#### 2 リハビリの対応

在宅復帰にあたり、患者・ご家族様とリハビリチームとでカンファレンス(事例検討会)を行い、その内容をもとに患者様個人に合せたリハビリテーションプログラムを作成します。また、専従の理学療法士、作業療法士がきめ細かなリハビリを行い患者・ご家族様をサポートしていきます。

#### 3 復帰後(退院後)の支援

在宅等への退院後も安心して生活出来るよう、必要な患者様につきましては住宅改修等のアドバイスをさせていただきます。また、在宅復帰が困難な患者様におかれましても社会福祉士が地域と連携して施設等の入所も考慮しながら退院調整を進めていきます。

その他、ご不明な点等ございましたら当院主治医またはかかりつけ医にご相談ください。

(回復期リハビリテーション病棟  
専任医師 寺島 宏明)

### 【提供する医療サービス】

～リハビリテーション  
(理学療法・作業療法・言語療法)～

#### 【理学療法】

起き上がりなどの動作訓練  
歩行訓練  
補助具・装具の検討



#### 【作業療法】

上肢機能回復訓練  
日常生活活動訓練  
(食事・入浴・更衣など)  
日常生活関連活動訓練  
(食事・趣味活動など)



#### 【言語療法】

嚥下訓練  
言語訓練

